

「公益信託ENEOS水素基金」2011年度助成対象者の決定について

～水素エネルギーによる持続可能な社会の実現に向けて～

当社(社長:木村 康)が設立した「公益信託ENEOS水素基金(運営委員長:堂免一成 東京大学工学系研究科教授、受託者:中央三井信託銀行)」は、この度、2011年度の助成対象者を次の5名に決定しましたのでお知らせいたします。

(敬称略)

白鳥 祐介	九州大学大学院工学研究院機械工学部門 准教授
永岡 勝俊	大分大学工学部応用化学科 准教授
松本 広重	九州大学稲盛フロンティア研究センター 教授
樋口 雅一	京都大学物質-細胞統合システム拠点 特定助教
須藤 祐子	東北大学大学院 環境科学研究科 助教

当社は、独創的かつ先導的な基礎研究への助成を通じて、水素エネルギーによる持続可能な社会の早期実現に貢献することを目的に、2006年3月、本基金を設立しました。水素エネルギー供給に関する研究助成に特化した公益信託としてはわが国初のもので、年間総額5千万円(1件当たり最大1千万円)の研究助成金を、約30年間にわたり安定的に交付することが可能な規模でスタートしました。

6回目となる本年度は、51件の応募の中から、本基金の運営委員会による厳正な審査を経て、上記助成対象者を決定しました。

水素を利用する燃料電池は、2009年に家庭用燃料電池「エネファーム」が発売となり、当社では本年10月17日にSOFC型エネファーム(※1)の販売を開始します。一方、燃料電池自動車(FCV)については、当社を含む民間13社が2015年の国内市場導入と水素供給インフラ整備に向けて本年1月13日に共同声明を発出しており、当社が参加する「水素供給・利用技術研究組合」においては、水素供給事業の基盤確立にむけた社会実証試験に取り組んでおります。

当社は、本基金の助成する研究の成果が、1日も早い水素エネルギーによる持続可能な社会の到来につながることを期待しています。

(※1) 固体酸化物形燃料電池(Solid Oxide Fuel Cell):電解質にセラミックを用い、各種燃料電池の中でも発電効率が最も高い。セルに貴金属が不要なことも特長。

以 上

● 別添資料

 [2011年度 助成対象者および研究テーマ](#) (PDF:88.5 KB)

 [「公益信託ENEOS水素基金」の概要](#) (PDF:126.2 KB)